

《令和 6 年度》

第 5 次地域福祉活動計画

（令和 4 年度～令和 8 年度）

実施状況報告

社会福祉法人小千谷市社会福祉協議会

〈社会福祉協議会の取り組み〉

第5次地域福祉活動計画 取組項目一覧

基本計画	取組 番号	取組項目	実施事業
1. ふれあい・支えあう地域づくり	1	福祉会でつながる地域づくりの推進	福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援
			福祉会・いきいきサロンの設立支援
			地域共生の居場所づくり支援（新規）
	2	お互いさまの支えあいを推進	生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施
			生活支援サポーター養成講座の開催
			第2層生活支援コーディネーターとの連携
2. いたわりとやさしさの心をもつ人づくり	3	未来へつなぐボランティアの育成	ボランティアセンター機能の充実
			ふくし・ボランティアかれっじの開催
			福祉ふれあいフェスティバルの開催
	4	ふくしの心を育むために実施するもの	社会福祉普及校事業の実施
			福祉・ボランティア情報の充実、拡大
			ふくし出前講座の開催（新規）
3. 安心して暮らすためのネットワークづくり	5	相談からふだんのくらしを しあわせにつなぐ	ふれあい福祉センター相談所の運営
			生活福祉資金等貸付事業の実施
			日常生活自立支援事業の実施
			法人後見事業の実施
	6	見守り・つながりあう関係づくりの推進	配食サービス事業の実施
			男性料理教室の実施
			救急医療情報キット配付事業の実施
			おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施
			みんなの食堂の実施

* 取組結果についての評価の記載について

◎ 計画どおり ○ ほぼ計画どおり △ あまり進まなかった × 進まなかった

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和6年度)

取組項目1. 福祉会でつながる地域づくりの推進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会のない地域や町内に懇談会や体験講座を開催し、地域福祉に対する理解が深まるよう働きかけます。 ・既存の福祉会やいきいきサロンには、研修会や情報交換の場を設け、ニーズに合わせた住民主体の活動ができるよう支援します。 ・福祉会と町内会、老人クラブの連携強化に向け支援します。 ・いきいきサロンに地域のお茶の間として対象者を広げるよう働きかけをします。 ・地域のつながりを必要とする子育て中の方や障がいのある方、ひきこもりの方、生きづらさを抱える方など誰でも、共に過ごせる地域の居場所づくりを支援します。
------	--

年次計画

実施事業	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援	継続				
福祉会・いきいきサロンの設立支援	継続				
地域共生の居場所づくり支援（新規）	検討・講座開催	居場所づくり			

進捗状況（評価指標等）

		R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
福祉会設立数 (R3 年度基準値：29 か所)	目標値	30	31	32	33	34
	実績値	29	29	29		
いきいきサロン開設数 (R3 年度基準値：38 か所)	目標値	39	40	41	42	43
	実績値	39	39	39		
地域共生の居場所開設数 (R3 年度基準値： —)	目標値	—	—	1	1	2
	実績値	—	1	3		

令和6年度の取組結果

		評価
福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援	6月・2月福祉会連絡協議会打合せ会開催。また夏季研修会（9月：遺言書保管や不動産登記等の新制度に関する研修）、合同研修会（3月：落語、笑いヨガ講座）を通じ役員のスキルアップや慰労を図る。当研修の講師を招いて自身の地域でも講座を企画したいという会も多く、活動拡大や活性化に結びついている。福祉会活動費助成28団体、サロン活動費助成9団体	◎
福祉会・いきいきサロンの設立支援	福祉会設立数は29か所、サロン開催数は39カ所で昨年同様も、本町福祉会（サロン含む）が役員高齢化のため活動休止中となっている。福祉会立ち上げに向けては吉谷地区で協議体・民生委員を対象に7月に説明会を開催、協議会の理解を得るため地域団体との連携を継続。また坪野で開催されている活動に交流要素を加えサロン活動を立ち上げたいという相談があり、今後担当者と話を詰めていきながらのサロン立ち上げを支援していく。	○
地域共生の居場所づくり支援（新規）	社協ではみんなの食堂を通じた共生の居場所を開催。また福祉会活動に対しても『多世代間交流事業』に対し補助金を助成する等多世代参加の居場所づくりを支援した結果、稲荷町福祉会や船岡福祉会等では定期的な交流事業を開催、地域の中でも共生の居場所づくりが拡大してきている。	◎

見直し・改善・今後の進め方

- ・福祉会については各種研修会の開催、アウトリーチによる意見交換、補助メニューの随時見直し等により活動を支援していきます。また各福祉会同士の横のつながりの強化に向け、研修会の開催以外にも相互に情報共有ができるよう調整していきます。
- ・地域共生の居場所づくりに向けては、次年度もみんなの食堂の継続、また講座や視察を通じ地域の中でも多世代交流に対する意識と気運の醸成を図っていきます。

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和6年度)

取組項目2. お互いさまの支えあいを推進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者の日常生活ニーズを地域で支えるしくみである「あちこたネットおぢや」について普及啓発し、担い手（生活支援サポーター）を増やし、多くの利用ニーズに応えるしくみとして強化します。 ・「あちこたネットおぢや」の担い手を継続的に確保するため、養成講座を開催するとともに、サポーター同士が情報共有できる機会を設けます。 ・第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域住民の困りごとの声やニーズを把握し、生活支援体制の整備・拡充を図ります。
------	--

年次計画

実施事業	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施	継続				
生活支援サポーター養成講座の開催	継続				
第2層生活支援コーディネーターとの連携	継続				

進捗状況（評価指標等）		R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
生活支援サポーター養成講座新規修了者数/ 新規登録者数（R3 年度基準値：4 人/3 人）	目標値	6/4	8/5	10/7	12/9	15/12
	実績値	6/4	3/2	4/2		
あちこたネットおぢやサポーター登録 数（R3 年度基準値：66 人）	目標値	68	70	72	74	75
	実績値	79	85	77		
あちこたネットおぢや利用会員数 （R3 年度基準値：20 人）	目標値	23	25	28	32	35
	実績値	40	44	29		

令和6年度の実施結果		評価
生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施	サポーター登録会員数、実利用者数共に減少傾向であるが、地域内の支えあい活動組織の活性化も進んでいることから新規依頼があった際に地域団体を紹介し、地域での支援につなげるケースも増えていることも一つの要因。引き続き地域団体と連携しながら事業を進めていく。	○
生活支援サポーター養成講座の開催	例年通り3回コースにて開催。受講延人数15名中4名に修了者証交付。新規サポーターとして2名登録。その他福祉会役員や町内役員向けに地域に出向いての生活支援に関する説明（片貝・日吉・千谷川）を実施。また昨年に引き続きサポーター連絡会を開催	○
第2層生活支援コーディネーターとの連携	生活支援体制整備事業事務局として第1層、第2層SCと連携し、生活支援体制整備事業の普及啓発（協力員懇談会、ささえ～る片貝説明会、認知症徘徊SOSネットワーク事業、高梨町福祉会役員研修、東小千谷町内会長会議、市地域自立支援協議会合同研修会）や日吉町内での支えあい活動組織化を支援。また11/25に市内の支えあい組織の情報交換会を開催	◎

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援サポーターの確保に向け、ふくし出前講座に養成講座をメニュー化し地域に出向いて講座を開催する等、多くの方から受講・登録していただけるよう内容や開催方法を見直していきます。 ・生活支援コーディネーターと連携しながら、町内会や福祉会・民生委員児童委員、支えあい組織等地域内の各組織のつながりの強化を図ることで、市全体の支えあい活動の活発化を図ります。
--

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和6年度)

取組項目3. 未来へつなぐボランティアの育成

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターでは、総合相談窓口として市民のボランティア活動を支援しています。今後もボランティアグループの協力をいただき、各種講座を開催します。また、ボランティア連絡協議会の支援を継続します。 ・ふくし・ボランティアかれっじを開催し、基礎科目（入門講座・傾聴講座）、選択科目（手話・要約筆記・音声訳・点訳・ふれEye ボランティアスクール等）を受講後、興味のあるボランティアグループを見学・体験し、ボランティア活動に参加しやすくします。 ・福祉団体やボランティアグループの活動を市民にPRする機会として、福祉ふれあいフェスティバルを開催します。
------	--

年次計画

実施事業	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
ボランティアセンター機能の充実	継続				
ふくし・ボランティアかれっじの開催	継続				
福祉ふれあいフェスティバルの開催	継続				

進捗状況（評価指標等）

		R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
ボランティア連絡協議会加盟グループ数（R3 年度基準値：41 グループ）	目標値	42	42	43	44	45
	実績値	44	44	45		
ふくし・ボランティアかれっじ受講者延べ人数（R3 年度基準値：250 人）	目標値	270	290	310	330	350
	実績値	196	471	264		
福祉ふれあいフェスティバル参加者数（R3 年度基準値：—）	目標値	800	900	1,000	1,100	1,200
	実績値	510	818	622		

令和6年度の取組結果

		評価
ボランティアセンター機能の充実	<p>ボランティア連絡協議会（加盟 45 団体 612 名、他個人会員 3 名）の活動支援として、該当する 37 団体へ助成金交付。また連絡協議会運営委員会（4 回）の開催やボランティアふれあい交流会を実施（12 月）</p> <p>24 時間テレビチャリティ・キャンペーン協力（8/31～9/1） 市内高校生 6 名が参加協力、高校生ボランティアの育成に努める。</p> <p>災害関連ではライオンズクラブとの災害ボラセン支援に関する協定の締結（6 月）、災害時支援協定を締結する青年会議所と共同で市総合防災訓練参加（10 月）や JC 合同例会での災害ボラセン設置訓練（3 月）を開催</p>	◎
ふくし・ボランティアかれっじの開催	<p>昨年より受講減となるが、昨年は特別公開講座の聴講者が 200 名超であったこと、災害ボランティア講座の開催により受講者が多かったことによるもの。『夏！ボラ体験プログラム』については例年どおり多くの子ども・親子が参加、若い世代がボランティアや福祉に触れるきっかけづくりとなっている。</p>	○
福祉ふれあいフェスティバルの開催	<p>10/7(土) に開催。ボランティアグループによる活動体験コーナーや活動ポスターの掲示、福祉バザーや縁日コーナーに多くの親子連れが参加、福祉やボランティア活動についてふれていただく。また震災から 20 年の節目を迎えたことから、福祉フェス第 2 部にて関係団体によるありがとうメッセージの発表や募集、特別公開講座後して中越地震支援活動にも携わった野村功次郎さんより講演いただく（86 名聴講）</p>	○

見直し・改善・今後の進め方

- ・ボランティア人材の確保に向け「ふくしボランティアかれっじ」の開催、ボランティア団体同士の横のつながり作りの支援、ボランティアセンターのPR方法の見直し等を行います。
- ・「福祉ふれあいフェスティバル」に多くの方から参加していただく企画を検討します。

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和6年度)

取組項目4. ふくしの心を育むために実施するもの

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の全小・中・高等学校・総合支援学校を社会福祉普及校に指定し、活動のための助成金交付や福祉体験学習の支援を継続します。 ・福祉学習の幅が広がるよう、福祉学習メニュー表の内容の追加や見直しを行います。 ・社協情報発信のため、毎月1回「社協だより」を全戸配布、ホームページの記事をリアルタイムに更新します。SNSの種類を増やし、福祉・ボランティア情報を幅広い年代層に発信します。 ・社協だよりは随時スタイルを見直し、幅広い世代の方に読んでいただくための工夫をしながら発行します。 ・学校・企業・事業所・町内会等へふくし出前講座を開催し、地域福祉やボランティアについて理解促進を図ります。
------	---

年次計画

実施事業	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
社会福祉普及校事業の実施	継続				
福祉・ボランティア情報の充実・拡大	継続				
ふくし出前講座の開催（新規）	検討	開催 PR・実施			

進捗状況（評価指標等）		R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
福祉体験学習の実施回数/参加人数 (R3 年度基準値：20 回/506 人)	目標値	21/506	22/515	23/525	24/540	25/550
	実績値	28/1,061	19/930	14/768		
広報手段の種類（SNS 含む） (R3 年度基準値：3 種)	目標値	3	3	3	3	3
	実績値	3	3	3		
企業・事業所等へのふくし出前講座回数 (R3 年度基準値：—)	目標値	1	1	1	2	3
	実績値	0	2	4		

令和6年度の取組結果

		評価
社会福祉普及校事業の実施	福祉普及校担当者打合せ会（5月、15名参加）。社会福祉普及校助成16校。小中高等学校等からの依頼により各学校へ出向き、車椅子、高齢者体験、手話・点字学習等の支援。福祉体験学習実施回は14回、5学年延べ768名の児童・生徒が参加。昨年より2校減、学童（2か所）での開催がなかったことにより実施校数および人数減。	○
福祉・ボランティア情報の充実・拡大	社協だより（毎月発行）、ホームページ、SNS（Facebook）による情報発信は継続。音声訳ボランティアの協力により社協ホームページを音声訳化し、視覚障がいの方に対する情報発信強化につながっている。	◎
ふくし出前講座の開催（新規）	共同募金会と連携し、市内各事業所に職域募金を依頼する際にふくし出前講座パンフレットを持参し直接案内。企業からの依頼はなかったものの、福祉会・サロン・デイホーム、学校から依頼あり。また年度末に郵便局の地域事業部より今後の地域活動推進に向け講座の依頼あり、R7年度開催	◎

見直し・改善・今後の進め方

- ・福祉体験学習については、より多くの学校で実施できるよう、ボランティア団体や関係機関と連携しながら様々な福祉教育メニューを検討、また学習メニューに組み込めるよう年度早々に学校に提示します。
- ・情報発信については、従来の方法による発信の他、市内外の各機関・企業の協力（電光掲示板の活用、チラシやポスター設置場所の増加等）を得ながら発信することで、より多くの方に社協事業が伝わるよう努めていきます。また Facebook の効果についても検証しながら、各種 SNS の運用を検討していきます。
- ・出前講座については、事業所へボランティアだより配布時にメニュー表を同封、共同募金委員会と連携し募金依頼時に直接案内、また若い世代への周知に向けた SNS の活用等により普及に努めていきます。

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和6年度)

取組項目5. 相談から💡だんの🌱らしを🌱あわせにつなぐ

実施
内容

- ・気軽に相談できる窓口として、ふれあい福祉センター相談所の運営を継続します。
- ・資金貸付事業は、生活困窮者自立支援等と関連して、市担当課や担当民生委員児童委員と連携を図りながら、継続して支援します。
- ・日常生活自立支援事業を利用することで住み慣れた地域で暮らせるよう支援します。
- ・法人として成年後見人等を受任し、判断能力が十分でない方の権利・生活を守るための権利擁護を支援します。

年次計画

実施事業	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
ふれあい福祉センター相談所の運営	継続				
生活福祉資金等貸付事業の実施	継続				
日常生活自立支援事業の実施	継続				
法人後見事業の実施	継続				

進捗状況（評価指標等）		R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
ふれあい福祉センター相談所 相談件数（R3 年度基準値：130 件）	目標値	130	135	140	145	150
	実績値	102	112	116		
生活福祉資金貸付事業相談延べ件数/貸付件数（R3 年度基準値：385 件/86 件）	目標値	120/20	40/5	40/5	40/5	40/5
	実績値	155/20	136/3	43/0		
たすけあい資金貸付事業相談延べ件数/貸付件数（R3 年度基準値：20 件/0 件）	目標値	20/1	20/1	20/1	20/2	20/2
	実績値	16/0	11/2	20/2		
日常生活自立支援事業相談延べ件数/利用者数（R3 年度基準値：520 件/17 人）	目標値	520/17	525/18	530/20	535/21	540/22
	実績値	749/23	809/23	909/25		
法人後見事業相談件数/利用件数（R3 年度基準値：2 件/2 件）	目標値	3/3	4/4	4/4	5/5	5/5
	実績値	1/4	0/4	0/1		

令和6年度の取組結果

		評価
ふれあい福祉センター相談所の運営	心配ごと相談 12 件、法律相談 92 件、年金相談 12 件 相談員研修会（5 月、3 月）、相談員先進地視察研修会（糸魚川市社協：7 月）を実施	○
生活福祉資金等貸付事業の実施	福祉資金（緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付および教育支援資金）新規相談 20 件（延件数 43 件）も、貸付では生活の自立改善が困難なケースが多く市の困窮機関に繋いで対応したため実績はなし。たすけあい資金は新規相談 4 名（延件数 20 件）、貸付件数は 2 件。生活困窮者自立支援担当部署との連携会議に出席（1 回）	○
日常生活自立支援事業の実施	新規相談件数 10 件、受付 7 件、契約 2 件、支援終了 6 件。訪問による相談件数 909 件。支援計画に基づく生活支援員による援助利用者総数 25 名、延 251 回。専門員、生活支援員対象の研修会に参加（4 回）	◎
法人後見事業の実施	1 件受任中も年度途中で被後見人死亡のため年度末現在では受任はないが、支援終了者の死後事務は継続中。支援活動延べ 133 回。法人後見事業運営委員会の開催（11 月、3 月）、制度に関する各種研修会、意見交換会参加（3 回）	○

見直し・改善・今後の進め方

- ・社協に相談窓口があることを周知するための発信手段の検討、また普段相談を受ける機会の多い民生委員児童委員へ働きかけていき、『ちょっとしたことでも社協に相談』という思いが市民に根付くよう努めていきます。
- ・権利擁護事業については、支援ニーズが年々増加傾向であることから、制度の周知や支援員養成講座の開催により新規支援者を確保することで、より多くの支援ニーズに対応できるよう努めていきます。

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和6年度)

取組項目6. 見守り・つながりあう関係づくりの推進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者の見守りや安否確認のため、ボランティアによる配食サービス事業を継続します。 ・男性料理教室を継続し、食生活の自立や生きがい・仲間づくりを支援します ・緊急時に適切な医療活動につながることで安心して在宅生活が送れるよう、救急医療情報キット配付事業を継続します。 ・おぢや子ども笑顔プロジェクトの内容を検討し、ひとり親世帯が必要な支援を実施します。また、子どもの食と居場所を支援するため「こども食堂」について検討します。
------	---

年次計画

実施事業	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
配食サービス事業の実施	継続				
男性料理教室の実施	継続				
救急医療情報キット配布事業の実施	継続				
おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施	継続				
みんなの食堂の実施	調査・検討	継続			

進捗状況（評価指標等）		R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
配食サービス利用者数 (R3 年度基準値：281 人)	目標値	284	288	292	296	300
	実績値	277	288	307		
男性料理教室参加者数 (R3 年度基準値：146 人)	目標値	155	161	167	173	180
	実績値	122	122	121		
救急医療キット配布数 (R3 年度基準値：121 件)	目標値	127	133	139	145	150
	実績値	131	137	169		
おぢや子ども笑顔プロジェクト利用者数 (R3 年度基準値：22 件)	目標値	22	27	32	37	40
	実績値	61	56	54		
みんなの食堂の実施 (R3 年度基準値：—)	目標値	—	—	1	1	1
	実績値	—	1	1		

令和6年度の取組結果

		評価
配食サービス事業の実施	5 地区（西小千谷、東小千谷、東山、片貝、岩沢）にて月 2 回、70 歳以上のひとり暮らし及び高齢者のみの世帯で希望する 307 名に、見守りや安否確認を目的に昼食弁当を配達。また年末には「おせち料理」を配達	◎
男性料理教室の実施	65 才以上の男性を対象に毎月第 2 火曜日開催。会員は 29 名、参加者延 121 人。入院による不参加や登録後長期参加のいない方も多いため、新規登録者も増えていることから延べ参加者数は昨年と変わらず。	○
救急医療情報キット配布事業の実施	社協ホームページ、協力員懇談会、民生委員児童委員協議会、あけびの会、地域救急医療に関する体制会議等を通じ関係機関への周知、消防本部と情報共有による連携により事業の浸透を図る。32 件新規配布	◎
おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施	ひとり親世帯の小学生以下の子どもを対象に、お正月福袋（フードバンクにご寄付いただいた食料、お菓子の詰め合わせ、こども商品券）を 41 世帯 54 名の子どもに配布。あわせてみんなの食堂等社協事業の案内や就学に係る資金貸付制度について情報提供	◎
みんなの食堂の実施	サンラックおぢやを会場に、子どものみでなく多世代の方が集う地域食堂『みんなの食堂』を開催。ひとり暮らし高齢者事業「あけびの会」との開催日と合わせることで、より多世代交流機会となっている（7 月：100 名、11 月：105 名、3 月：100 名、延 305 名来場）	◎

見直し・改善・今後の進め方

- ・救急医療情報キット配布事業については、引き続き消防本部救急隊との連携を継続、また協力員懇談会や民生委員児童委員、福祉会合等の地域関係者が多く集う場にてキットを周知し、より多くの方に情報が届くよう努めます。またキット内情報の随時更新の周知等を通じ、現にキットを活用している方の把握に努めていきます。
- ・おぢや子ども笑顔プロジェクトを通じ、申請のあった世帯に定期的に生活に役立つ情報や集いの場の提供等、つながりを絶やさない工夫をしていきます。
- ・みんなの食堂の開催を通じ、様々な世代・立場の方が過ごせる場づくりを進めていきます。

〈地域ごとの取り組み〉

令和7年6月30日～7月4日にかけて、市内5地域にて協力員懇談会を開催しました。参加者は、町内会長、民生委員児童委員・主任児童員、市議会議員、社協理事・監事・評議員の皆様です。

当日は社協事業説明後、地域の居場所づくり・多世代交流に向けた取り組みとして、社協による『みんなの食堂』や、各福祉会での多世代交流の居場所づくりについて紹介しました。後半は第5次地域福祉活動計画についてアンケートを実施、地域福祉活動計画が皆様の中にどれだけ浸透しているか、計画した取り組み項目に対する地域の実施状況についてご自身でどう感じているか、A～Dの4段階で評価していただきました。

結果については、次ページ以降に地域ごとにまとめましたのでご覧ください。第5次地域福祉活動計画について、参加された方のうち『内容も知っている』方は31%（昨年比6%減）、『計画があることは知っている』方は45%（昨年比2%増）、『初めて知った』方は24%（昨年比4%増）でした。

より広く地域の方に知っていただくため、引き続き社協だよりやホームページにおいて地域福祉活動計画の評価を報告し、地域の集まりの場に伺った際にはPRし周知を図っていきます。

6/30 東小千谷・東山地域



7/3 片貝地域



7/1(午後) 西小千谷地域



7/1(午前) 千田地域




7/4 南部地域



西小千谷地域 西小千谷地区・城川地区・吉谷地区・山辺地区の一部

(山本・西中・池ヶ原・古田・池中新田・上片貝)

取組項目 1. 住民全員が参加し、つながりある地域をつくろう		評価				<div><div><div>A 19%</div><div>B 38%</div><div>C 28%</div><div>D 15%</div></div></div>
		A	B	C	D	
地域では	福祉会のない地域や町内は、福祉会設置に向けた取り組みをします	10	11	16	21	
	既存組織や活動を通じ、若手の参加を呼びかけ交流の機会を確保します	4	21	27	11	
個人では	福祉会活動を理解します	19	28	10	5	
	「向こう三軒両隣」を意識し、近隣同士の声掛け、誘い合い、見守りをします	13	33	17	1	

《自由記載より》・定年延長に伴い高齢になっても働く人が多くなった ・地域活動への参加が希薄となってきている

・空き家、空き地が増えている ・新しい家も建つが同じ班でも名前や顔がわからない方もいる ・三軒両隣よりもう少し大きい単位での交流が必要

取組項目 2. 子どもから高齢者まで地域活動に参画し、活躍できる地域づくりをしよう		評価				<div><div><div>A 17%</div><div>B 32%</div><div>C 33%</div><div>D 18%</div></div></div>
		A	B	C	D	
地域では	学校、PTA と協力し、長期休み中の生徒に福祉活動へ参加してもらい、次代の担い手の育成をします	6	15	26	17	
	多世代の共同作業の中でリーダーや若い世代の担い手を育てていきます	2	16	29	7	
個人では	近所や友人と誘い合って参加します	12	25	18	5	
	町内の活動に積極的に参加します	33	22	6	3	
<div>《自由記載より》・中学生の部活等が休日にあるため地域活動に参加できない ・若い世代の減少や家族中心という考え方</div> <div>・町内や地域のイベントが再開しつつあるので、参加を負担に思わず楽しいと思ってもらえる仕掛けが大切 ・学校、PTA との協力は素晴らしい。子育て世代を巻き込む工夫が大事</div>						

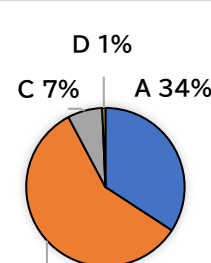
取組項目 3. 地域の中で福祉活動を充実させよう		評価				<div><div><div>D 8%</div><div>A 15%</div><div>C 35%</div><div>B 42%</div></div></div>
		A	B	C	D	
地域では	住民が地域の資源を知ることができるよう、地域内の組織や仕組みを周知します	1	29	28	7	
	役割を持てる場や仕組みづくりに取り組みます	1	25	29	7	
個人では	地域の生活課題に関心を持ち、解決に向け考え行動します	10	29	20	5	
	「ちょっとした手助け」を実行します	12	30	20	0	
	集いの場に参加します	25	31	13	4	

《自由記載より》・支援体制はできつつあるが申込数が思ったほど増えない ・参加のハードルが高いと思わせないような仕掛けづくりが大切 ・社協やさつきのパンフは地域住民や若い人の目を引きやすいものでよいと感じた ・公民館活動と連携しながらサロン実施を目指したい

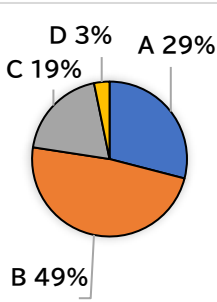
社協では！

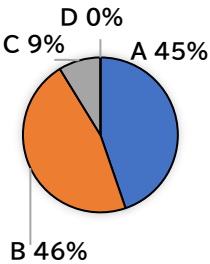
町内活動や集いの場への参加等、個人では取り組んでいるという評価が多いことから、個々の取り組みをいかに地域活動として結び付けていくかが課題であり、自由記載にもある通り地域活動参加への仕組みづくりが求められると考えます。引き続き福祉会のない地域や町内には福祉会設置に向けた働きかけ、また福祉会のある地域については福祉会を通じた地域福祉活動の支援を継続していきたいと考えます。

東小千谷・東山地域 東小千谷地区・東山地区

取組項目 1. 地域の中でいろんな世代の方と関わり、つながりをつくらう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	伝統行事など、子どもから若い世代が地域に愛着を感じられる活動を行います	10	16	5	0	
	ひとり暮らしの方が地域から孤立しないよう、地域全体で見守ります	5	24	2	0	
個人では	地域のことを知るようにします	17	12	2	0	
	子どもから高齢者まで欠かさずあいさつをします	9	21	0	1	
	常日頃より顔を合わせて話をするこで、近所の方との関係づくりをします	12	17	2	0	

《自由記載より》・昨年度、若い方が参加できる会を立ち上げた ・子どもも大人も昔のように外で話をする場面をみなくなった
・いくら町内で活動を PR しても出てこなければ町内の方を知る手段もない ・世代間交流行事の重要性を感じる ・祭りやさいのかみなどの行事があれば参加するが、進んで役員等の面倒事はやらない若い方が多いと感じる

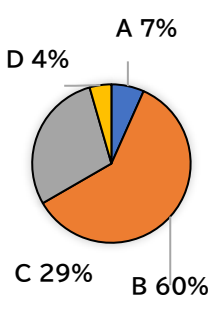
取組項目 2. じぶんの地域の福祉会や福祉活動を知り、できることから参加してみよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会活動、地域の支えあい活動の理解促進に向け、多くの住民に周知します	7	16	8	0	
	青年会や万灯会への支援や連携により、新たな担い手を発掘し、育成します	6	12	10	3	
個人では	地域の福祉会や支えあい活動などの福祉活動について理解します	12	14	5	0	
	町内行事や地域活動に誘い合い、参加します	11	18	1	1	
《自由記載より》・行事の手伝いはできるだけ参加はするも、仕事優先となることが多い ・町内と成年会・万灯会とで連携をとってはいるものの、同メンバーのみであるため広がりがみられない ・生まれ育ったところでないせいか、特に団地の人は子どもがいないと地域行事に参加しないように思う						

取組項目 3. 困ったときは相談でき、助けあえる地域にしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会や町内会、支えあい組織による見守りや支援体制を確保します	10	6	5	0	
	困りごとがあったら、町内会や福祉会、民生委員が連携し関連組織へつなげます	12	16	3	0	
個人では	じぶんでできそうなことは、手助けをします	15	15	1	0	
	困っている（いそうな）人がいたら声を掛け、困りごとを聞きます	14	16	1	0	
《自由記載より》・いろいろな場所に参加して、できるだけ他の方の意見を聴いたり参考にしている ・困っているのでは？と思う人はいるが、声を掛けてもなかなか助けてほしいと言わないように感じる ・声を掛けても人の世話になりたくないという人もおり、関係機関につなげられない						

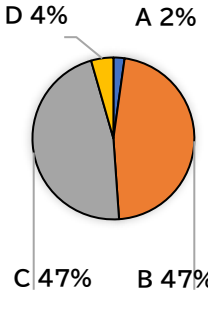
社協では！

地域福祉活動が活発な土地柄、近隣で助け合える体制ができていると評価する方が多数です。一方、少子化や就労環境、人生観の変化から若年層の活動参加の減少、各種活動の世代交代が課題であるという意見も挙がりました。社協としては、東小千谷の各町内や東山地区の全てに設置されている福祉会の活動支援を通じ現に実施されている地域福祉活動の推進、地域福祉活動助成金交付事業を通じ町内行事の活性化を図り、若い世代の地域活動への参画が図れるよう支援したいと考えます。

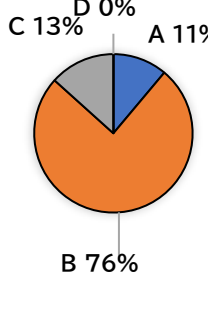
千田地域 千田地区・五辺高梨地区

取組項目 1. 地域活動参加を通じ、住民同士のつながりづくりをしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域行事や集いの場など、子どもから高齢者まで集える場づくりをします	1	6	2	0	
	様々な世代の方が交流できる場をつくります	0	5	3	1	
	既存の地域行事の中で若手が役割を持てるようにします	0	2	7	0	
個人では	地域行事に積極的に参加し、いろんな世代と交流する機会を持ちます	1	7	0	1	
	常日頃より近隣や地域の人同士が気軽に話せる関係を作ります	1	7	1	0	

《自由記載より》・地域行事が少なくなり交流の場がない。なくしていった行事に代わる企画が必要と思う
・町内活動やイベントが少なくなった
・活動機会を増すにはエネルギーが必要でちょっと大変。気楽にできることがあれば
・町内役員以外が集まる場が設けにくい

取組項目 2. 福祉活動や地域の福祉活動に参加してみよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会、支えあい活動の内容を周知し、若い世代への理解促進を図ります	0	3	5	1	
	若手主体の組織との連携、伝統芸能行事等を通じ若い人と共に活動する機会をつくります	0	4	5	0	
	役割や健康増進活動により高齢になっても役割を持てるような取り組みをします	0	3	6	0	
個人では	福祉活動について学び、できるところから参加します	1	5	2	1	
	介護予防、健康寿命増進に向け取り組んでいきます	0	6	3	0	

《自由記載より》・若手主体の組織の存在が見えない
・「支えあい」の組織はあるが、必要として利用している人は少ないと聞いている
・地域に子どもが少なくなっている。全体を集め参加交流の場を作る努力が必要

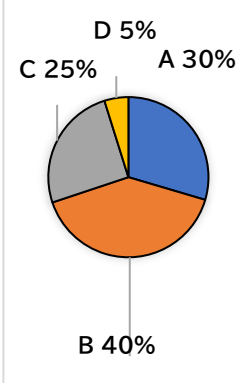
取組項目 3. お互いに支えあい、助けあえる地域にしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域の中で助けあい、支えあい活動を組織化し、実施します	2	7	0	0	
	地域の中での支えあいの必要性を住民に周知します	0	7	2	0	
個人では	できる範囲で活動に参加します	2	7	0	0	
	困っている人には手を貸します	0	8	1	0	
	困ったときは個人で悩まず、町内に相談します	1	5	3	0	

《自由記載より》・困っている人はいると思うが、なかなか手を上げづらいのでは？
・高齢者は困り事があっても周囲に迷惑をかけないようにと黙ってしまう傾向あり、それを回避できるような体制を作りたい

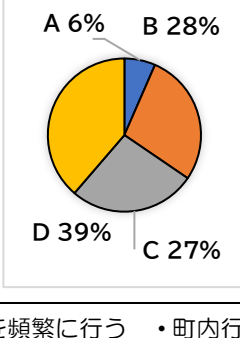
社協では！

地域の中での福祉活動の組織化が進む町内も多く、個人レベルでの助け合いへの意識や活動参加にもつながっているという評価がありました。一方で若い世代との交流や役割の確保、地域で行う福祉活動の理解促進が課題であると感じる声もまた多くありました。当地域内の町内で全てに設置されている福祉会の活動支援や、地域福祉活動助成金交付事業の周知により地域行事の開催を促し、多世代による地域活動参加につなげられるよう支援したいと考えます。

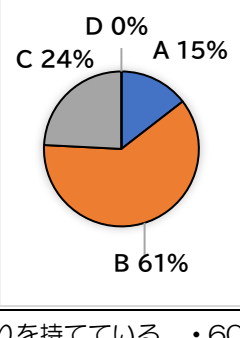
南部地域 川井地区・岩沢地区・真人地区・山辺地区の一部（上坪野・細島・塩殿・卯ノ木）

取組項目 1. 今あるつながりを保ちながら、新たなつながりを育んでいこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域内で誘い合い、地域の集いに大勢の方が参加できるよう住民に働きかけます	5	14	11	1	
	若い世代に地域行事の中で役割を持ってもらい、楽しみながら「自分の地域」を身近に感じてもらう機会を設けます	1	9	16	5	
	ひとり暮らしの方には隣近で気にかけて、声掛けをすることで地域から孤立する方を出さないようにします	7	14	9	1	
個人では	近所同士のあいさつ、ちょっとした声掛けや誘い合いを続けます	19	9	2	1	
	地域行事に積極的に参加し、いろんな世代と交流する機会を持ちます	10	13	7	1	
	常日頃より近隣や地域の人同士が気軽に話せる関係を持ちます	13	16	2	0	

《自由記載より》・地域の中では昔から知った顔が多いが、新たなつながりの機会がない ・各家庭が各々の中で課題解決しており地域の力を借りる必要性を感じていないのではないかと ・若い世代が出ないのではなく少ないのだと思う

取組項目 2. 地域みんなで地域福祉活動に取り組んでいこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	役割づくりや活動機会の確保により、高齢でも達者でいられるようにします	4	17	10	0	
	地域福祉活動を通じ、子どもから高齢者まで様々な世代が役割を持てるようにします	1	5	23	2	
個人では	健康寿命の増進を意識し、介護予防や役割づくりに努めます	3	12	16	0	
	自分でできる福祉活動について考え、積極的に参加します	3	11	16	1	

《自由記載より》・地域に子どもがいないが、盆正月等帰省し子ども達が集う機会があるときには声掛けを頻繁に行う ・町内行事が少なく活動する機会が少ない ・役割を持たせる機会を与えようとすると尻ごみをされる。積極的にリーダーになろうという人は稀

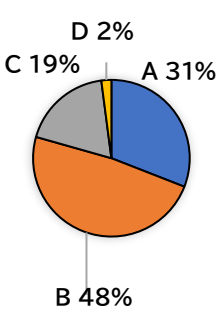
取組項目 3. 地域や近隣の助けあいを続けていこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	今ある組織や仕組みを活用して、近隣住民で困り事が解決できる仕組みをつくります	1	19	11	0	
	困った時に支援の受け皿となる機関につなげます	4	16	11	0	
個人では	支援が必要な方に対し、自分ができる見守りや支援を行います	5	22	4	0	
	困ったときは近所の人や地域の人に相談します	8	19	4	0	

《自由記載より》・地域ではいい意味でおせっかいな人も多く、姿が見えないと心配する等人とのつながりを持っている ・60～70 歳でも働く人が増えた。平日に活動できる人がそもそも少ない。また特定の人に偏りその人が引退した後の負担が大きく活動の縮小になる。若手も参加することはあるが、サポートより丸投げされて人材育成に失敗することもある。

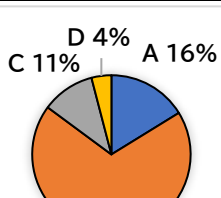
社協では！

個人と個人・地域とのつながりが強い地域であることから、地域や近隣同士の交流や助けあいに結びついていると評価する声が多く挙がっています。一方で、少子高齢化による若い世代の地域参加を通じた役割作り・世代交代が課題という意見も多く挙がりました。個々のつながりを強みに、福祉会や生活支援コーディネーターとの連携を通じ引き続き地域福祉活動の体制づくりに向け支援したいと考えます。

片貝地域 片貝地区

取組項目 1. 地域内の一体感を強みに、子どもから高齢者までつながっていきこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域ぐるみでひとり暮らし高齢者や高齢世帯の把握、見守りをしていきます	10	13	1	0	
	福祉会・町内会・民生委員が連携しながらひとり暮らし高齢者などの把握をし、地域内での見守り体制の構築を図ります	12	9	3	0	
個人では	何気ない言葉がけ、あいさつ、交流の場へお誘いをしていきます	4	13	7	1	
	関係者や地域内で情報共有をできるよう、ちょっとしたことでも情報提供していきます	4	12	7	1	
《自由記載より》・少子高齢化が進んでおり活動も縮小傾向、地域活動の復活が大事 ・高齢者同士の交流はあるが、子どもが少ないのでなかなか交流が難しい ・地域の見守りは町民自身が十分に取り組んでいると感じるが、見守る方も高齢化しており「老々介護」のようなイメージを受ける						

取組項目 2. 地域にある福祉活動組織の活動を知り、参加しよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会活動・ささえ～る片貝の活動を周知していきます	8	11	5	0	
	様々な地域活動の中で、若手の参加を促す気運、仕組みをつくっていきます	4	10	10	0	
個人では	福祉会やささえ～る片貝がどんな活動をしているか見聞かし、必要な方に情報提供します	6	10	7	1	
	自分ができることは協力します	10	8	7	0	
	若い世代に関心を持ってもらえるよう声掛けし、活動参加を促します	4	6	14	1	
《自由記載より》・福祉活動自体があまり認知されていない。多くの方に周知してもらうよう活動していきたい ・ひとり暮らしでも元気な方が多いので自分でできている。困っている人は近所をお願いしている						

取組項目 3. 地域住民同士で助けあい、支えあえる地域にしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域の各組織のつながりを強みに、横のつながりを強化し福祉課題解決に取り組んでいきます	6	15	3	0	
個人では	近隣や友人など地域のつながりを活用し、情報を伝えたり聞いたりして共有します	4	20	0	1	
	今ある地域の資源を存分に活用します	2	16	5	2	

《自由記載より》・小さなコミュニティは存在するが、それらを一本化するには難しさを感じる ・片貝はつながりが強く情報共有も活発と思うが、様々な団体が数多くあっても活動的な方は役が重なったり顔ぶれが毎回同じということもあり、意外と新しい担い手への交代は進んでいない印象もある

社協では！

個人のつながりを通じた地域内でのつながり、福祉会活動・ささえ～る片貝等地域福祉活動により、地域住民同士で助けあえているということがうかがえます。これらの地域福祉活動がより多くの方に広まること、また若い世代も関心を持ってもらうことで、一層いかにつながり作りや周知が課題であるといった意見も多い結果となりました。社協としては福祉会の活動支援を継続し、子育てサロンや世代間の交流を通じ若い世代が参加できる場づくり、また地域に根差した支え合い活動の継続に向けささえ～る片貝の活動をバックアップしていきます。